

謹 弔

次の会員がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

時 任	豊 氏	下関市医師会	1月24日	享年 90
小屋敷	和 昭 氏	下関市医師会	2月 2日	享年 93
土 屋	公 徳 氏	宇部市医師会	2月 7日	享年 87
小 原	正 氏	大島郡医師会	2月11日	享年 92

編 集 後 記

県医師会生涯研修セミナーで「男性の性腺機能低下症（LOH 症候群：Late-Onset Hypogonadism）」の講演を聴く機会があった。

加齢やストレスなどに伴って男性ホルモンであるテストステロンが減少しさまざまな症状が出る、いわゆる「男性の更年期障害」と言われるものであり、50～60歳に多い傾向にあるとのこと。最近元気が出ない、やる気が出ない、などの不調はLOH症候群が原因の可能性があるという。

テストステロンの分泌が低下すると、まず、身体症状として、筋力低下や筋肉痛、疲労感、異常発汗・ほてりなどがあり、また、男性特有の症状として、性能の低下などが起こる。

また、中性脂肪やコレステロールの代謝が低下し、肥満、高血圧、高血糖、脂質異常症などの生活習慣病を発症するリスクが高まる。

一方、精神面での影響は大きく、興味や意欲の喪失、不眠、不安感・イライラ、うつ症状、そして集中力や記憶力の低下などが現れる。

このLOH症候群の可能性については、自分でチェックすることができる。

詳細は「AMS 調査票」「加齢男性性腺機能低下症候群診療の手引き 2022」を見ていただきたい。この調査表は、問診で使われるほか、セルフチェックの方法としても利用されている。

そこで早速、自分でチェックしてみると中等度の症状と出た！チェックした項目をみると意欲や心情面での変化が点数に出ているように思う。確かに、以前に比べ、ちょっと踏ん張らないと行動に移せない、少しのことでよくよく悩む、など思い当たるものがあり、近々血液検査をしようと思っている。

一方で、テストステロンの分泌には、加齢に合わせて「社会的な活動」が深く関係しており、社会的な役割をもっていたり、趣味などで人生を楽しんでいる人は、テストステロンの分泌が低下しにくいという。

講演を聴いて、これからも、県医師会など“社会的な活動”は必須なのかな～と考えるのである。読者の方で心配な方は、一度、セルフチェック・血液検査をされてみてはいかがでしょうか。

（参考）山口大学医学部泌尿器科講座 白石晃司教授講演「男性の性腺機能低下症 LOH 症候群」
2022.11.20 山口県医師会生涯研修セミナー資料より

（理事 岡 紳爾）